

次世代ワークショップ

来たるべき「ブラジル研究」にむけて

—政治経済の変化がもたらすもの—

2011/1/22 13:00~ 上智大学中央図書館8階L-821会議室

目的: 21世紀に新時代を迎えたと言われるブラジルの具体的な変化と、その変化を捉える視座を検討すること

●第一部(基調講演)

「近年のブラジルの変化—1980年代から現在まで」——近田亮平氏(日本貿易振興機構アジア経済研究所)

●第二部(事例報告)

「気候変動が迫る相互連携?—ブラジルにおける多層ガバナンス分析の可能性」——舩方周一郎氏(上智大学大学院)

「新時代のブラジルにおける宗教的不寛容とレイシズム—ネオペンテコステ派によるオリシャ批判から」——高橋慶介氏(一橋大学大学院)

●第三部(テーブルディスカッション)

「日本におけるブラジルをめぐる研究環境の変化」——上記に加え、中牧弘允氏(民族学博物館)、奥田若菜氏(神田外語大学)、アンドレア・ロペス氏(サンパウロ大学)

総評

ワークショップは、「政治」制度構築の80年代、「経済」安定の90年代、不平等是正の2000年代というブラジルの変化を捉える時代的枠組みの提示(近田氏)によって開始された。

次いで、個別事例報告では「経済成長や国際的役割」(舩方氏)、「宗教や人種」(高橋氏)を通してブラジルの具体的変化について議論が行われた。

テーブルディスカッションでは、ロペス氏から「老年学」や「環境研究」といったブラジルにおける萌芽的研究が紹介された。また、中牧氏からは日本、ブラジル双方の研究者による共同研究の重要性が指摘された。最後に、今後10年の展望をめぐって、「平等」、「大衆」、「統合」といったキーワードが約20名の参加者から相次いで提示され、活況のうちに閉幕した。